

長谷部 雅美

日本社会事業大学大学院 博士後期課程

自伝的記憶(autobiographical memory)が一人暮らし高齢者の心理的適応に及ぼす影響の検討

本研究では、①一人暮らし高齢者の自伝的記憶の特徴を明らかにすること、②自伝的記憶が心理的適応に及ぼす影響を明らかにすること、以上2点を目的とした。

調査データは、独自に実施した計量的な社会調査から得た。調査対象者は、東京都A市の老人クラブ会員で、65歳以上の地域高齢者340名とし、調査方法は質問紙法自記式による、郵送配布・留置・郵送回収の方法を用いた。

分析の結果、第一に、一人暮らし高齢者は、家族と同居する高齢者と比べて、「肯定的な自伝的記憶」を多く記憶する、または強く意識するような、生活環境や心理状態にある可能性が示唆された。さらに、「肯定的な自伝的記憶」は、主観的幸福感とより高い相関を高める影響を及ぼしていたことから、一人暮らし高齢者にとって、「肯定的な自伝的記憶」が心理的適応を促進する要因となり得る可能性が示唆された。第二に、同居家族のある高齢者においては、一人暮らし高齢者と同様に、「肯定的な自伝的記憶」が心理的適応を促進する要因となり得る可能性のある一方で、「否定的な自伝的記憶」が心理的適応を阻害する要因となり得る可能性が示唆された。